



# 『第1回宮城厚生協会業務改善小集団活動発表大会』開催

6月21日(土)の午後病院セミナー室で、協会内各事業所での活動11事例(資料参加3含む)が発表され、約50名が参加しフロアとの意見交換も活発に行なわれました。

はじめに、協会業務改善推進委員長の佐藤直志常務理事があいさつし、「業務改善の取り組みを交流しあることは、地域に貢献し続ける組織としての宮城厚生協会の使命を豊かにするものであり、これを期にさらに取り組みを充実発展させていきましょう。」と述べました。

今回は、コメントーターとして仙台医療センターTQM事務局の高橋美鈴外来師長をお招きし、1発表ごとに適切な評価と具体的なアドバイスをいただきました。

## 記念講演「千鳥橋病院でのTQC活動」 豊田文俊先生

次に、第36回全日本民医連総会でTQC活動が顕彰されるなど先進的な活動をされている福岡・千鳥橋病院副院長の豊田文俊先生より記念講演として「千鳥橋病院でのTQC活動～何の(誰の)ためのTQC運動か？」というテーマでお話をいただきました。



## なぜ医療にTQCが必要か

一般的には、医療の質の向上・安全確保・経営改善があげられること、また、医療診断技術の進歩がある一方課題も沢山ある状況が報告され、医療をとりまく環境の変化として私たちの運動に対するマスコミや社会の評価がかけ離れていること、国の医療の切り捨て政策を世界各国との比較でわかりやすく解説。米軍基地や道路行政等を中心とした税金の無駄使いについては、「社会保障国」ではなく「社会販売国」だと皮肉る場面も。

千鳥橋病院の旺盛でユニークな活動の数々が動画で紹介され、患者に選ばれる病院のキーワードとして5S(ソーシャル、セーフティー、スピードィー、シンプル、スタンダード)があげされました。TQC活動の利点として、草の根運動(自主的な参加)、モチベーションがあがる、職員の離職率が減ることなど、が示されました。

## 事例発表プログラム

優は優秀賞受賞グループ

順番	テーマ	事業所・職場・チーム名	発表者
1	ICUにおける患者様の貴重品管理	坂総合病院ICU 貴重品管理チーム	升川 望 鈴木真紀子
2 優	病棟立ち上がり訓練を見直そう	坂総合病院回復期リハビリ病棟 患ジャニエイト	今泉 洋子
3	職員の接遇意識を向上させよう	古川民主病院接遇委員会	只塙 齊
4	職員間の接遇	泉病院TQMプロジェクト	吉田 歴人
5 優	診療予約外の受診希望者対応改善の取り組み	坂総合クリニックビタミンS 武田さち子 阿部 文子	
6 優	薬の自己管理できる?出来ない?	坂総合病院回復期リハビリ病棟 内服(朝からごきげん)	高橋 典子
7	師長業務を斬る	坂総合病院師長学習チーム チェリーブラッサム	今泉 洋子 中川 明子
8	泉病院でのTQMの取り組み	泉病院TQM	長谷部 誠
資料 1	受付の混雑を減らそう	長町病院付属クリニック 内科外来看護師	資料のみ
資料 2	転倒・転落事故を減らそう	坂総合病院回復期リハ病棟 病棟スタッフ	資料のみ
資料 3	医療事故分析事例(注射ミス)	古川民主病院医療安全委員会	資料のみ

## 表彰式 優秀賞3グループへ

最後に、水戸部秀利理事長より全体の講評があり、発表者の表彰式が行われ、3グループに優秀賞が贈られました。(発表プログラム参照 優印) (編集事務局)



8グループが次々と発表



民医連方針学習会(坂病院グループ)

② 古川・長町歯科の構造転換  
古川、長町の両歯科は、改善に向けた対策が進められ、1年が経過しました。事態は協会が経営を圧迫し待ったなしの状況にあります。歯科事業部を確立し、事業収入に見合った人件費構造に作り変える必要があります。

③ 泉病院の回復期リハビリ  
経営の安定化に向けてリハビリ医師配置、看護師配置が病棟への移行など

④ 若林の患者増対策など  
若林クリニックの患者減少の回復対策が急務です。地域訪問行動をもとに友の会と協力した患者結集の改善、患者送迎を含めた受診しやすい取り組みを具体化します。

福田町クリニックの今後の方向について検討が必要です。

2、将来にわたって経営が成り立つ財務構造の再構築

－人事費金・退職金制度見直し課題－

厚生協会の現状は、07年度決算で公認会計士及び監事監査での所見で、現在の退職金制度について、「民医連統一会計基

準に基づく引当率に必要な財源確保は、協会の経営能力から超えており、破綻状態にあると

考える「支払い能力の範囲とするか、可能な収益力をつけていくか早急な選択が迫られる」と指摘されています。

これまでの経営構造の総合的硬直した経営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した経営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

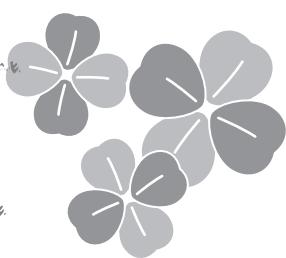
見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・経営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造の総合的見直しを進め、将来にわたつて医療・絏営活動を継続・発展

見直しを進め、硬直した絏営構造

# 訪問看護ステーション

# シヨン



訪問看護ステーションあゆみとして、  
現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々  
を訪問し、月約680件の訪問を  
しています。

訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。

訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。



## ほほ笑んで、看護

長町訪問看護ステーションほほえみ 所長 板橋祐子

朝、長町病院附属クリニック三階奥のドアを開けると、窓から差し込む明るい日差しこともに熱氣あふれる賑やかな声とたくさんの笑顔が飛び込んできます。1998年に3名の看護師で始まった「ほほえみ」は、現在板橋所長、大友主任以下16名の看護師とリハスタッフ2名、養護学校に5名の看護師を派遣する大所帯に成長しました。「ほほえみ」職員の殆どは、パート勤務のママさん看護師。子育てしながら、生き生きと働いています。

利用者の状態報告を兼ねた朝会後、ピンクのユニフォームの面々は「行つります」と訪問家庭へと飛び出しています。一旦人気のなくなった事務所が賑わいを取り戻すのは、12時半を過ぎてから。汗をふきふき戻った事務所で、持ち寄ったおかずやお弁当を広げながら訪問時のことなど、子

## 自然を感じながら利用者さん宅へ急ぐ

中新田訪問看護ステーション 所長 佃恵子

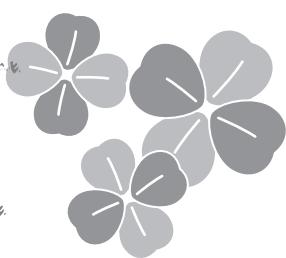
今季節は車の運転が一番楽しい時です。山々の緑はきれいだし、田んぼの稻の成長を目にしながら利用者さんのお宅へ急ぎます。加美町、色麻町、旧古川市一部、旧岩出山をエリアとし、遠い人でやくらひ山を越えてなべ越峠の手前まで行きます。(この地域の方は買い物に山形へ行くそうです。)

スタッフは、事務・OT(週1回古川民主病院から)を含めて7名になりました。6月からの訪問リハビリ開始に伴い包括支援センターへいざつに行きました、「関わりを持つてもらえるOTさんがいなかつたので非常に心強い」とお話をされました。

中新田民主診療所に併設してテイケア、居宅ヘルパー、



# シヨン



## 近況紹介

### 頼れるステーションめざし頑張ります

郡山訪問看護ステーション 所長 吉田真理子

訪問看護ステーションあゆみ 所長 伊藤久美子

訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。

訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。



訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。

### 老舗のステーションとしての輝きを!

郡山訪問看護ステーション 所長 吉田真理子

訪問看護ステーションあゆみ 所長 伊藤久美子

訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。

訪問看護ステーションあゆみは、昨年4月、小金町訪問看護ステーションと合併し、新生「あゆみ」としてスタートしました。現在利用者は130名で、11才から103才までの年齢の方々を訪問し、月約680件の訪問をしています。

1995年10月介護保険制度開始前の設立です。所長は3代目、老舗の風格を保っているのだろうか?などと某治療機関は36ヶ所で、全体の73%が民主病院以外の医療機関は、リハビリ評価プログラムに基づいたリハビリの提供ができる。

②ターミナルや難病、医療度の高い方への訪問看護に対応できること(この間民主病院の往診と連携し、在宅看取りの件数も増えてきています)

③併設しているヘルパーステーションあゆみとの連携で、医療から生活まで幅広いサービスが提供できる。



又、昨年11月より24時間緊急体制を取り地域の中で頼れる訪問看護ステーションを目指し、スタッフ一同頑張っています。

スタッフは5月に20代・30代の新たなメンバーが加わり、毎日ぎやかに仕事をしています。

訪問エリアを太白区、若林区とし、太白区を姉妹ステーションの「ほほえみ」と分かれています。私たちの看護の精神は「利用者様が安心して自宅で暮らし続けたいと思えるサポート」そして「介護すると決めた家族を(出来るだけ)悔いを残さないようになります」です。しかし、高齢者や障害を持った方々を取り巻く現実は昨今、益々厳しく支払い困難事例や、家族の病気(精神、心の病の多いこと)、自殺までも私たちの身近なところで起きています。病院の在院日数が抑えられていますが、在宅誘導政策の割には追いつかない訪問看護師不足です。「訪問看護つて本当に面白い、やりがいのある仕事です。是非ご紹介ください。」とスタッフ一同、喉から手が出ています。